

2004 2004 2004 2004

2004 ふくほうディスクロージャー誌



ゆめBANK  
福邦銀行

## C O N T E N T S

シンボルマーク・プロフィール.....	1
頭取あいさつ.....	2
経営理念・福邦の心.....	3
当行の考え方.....	4
トピックス.....	5
平成15年度業績ハイライト.....	6
地域貢献への取り組み.....	8
地域への融資の取り組み / 地域振興への取り組み / 地域サービス充 実への取り組み ほか	
より信頼をいただくための取り組み.....	14
資産の健全化に向けて / リスク管理体制 / コンプライアンスに対す る考え方 ほか	
資料編.....	20



## シンボルマーク

当行は平成元年にCI計画を導入し、このシンボルマークを使用しております。このマークは、皆様と当行の固い信頼関係の上に、共に発展していくため、当行のイニシャルである「F」をダイナミックにシンボル化したものです。グリーンの三角は地域の発展を示し、白とグリーンで円を描いている部分は、皆様と当行のふれあいを表しております。この三角と円のハーモニーによって、全体にイメージされる「F」のデザインは、地域と皆様の繁栄に貢献し、未来永久に幸せをもたらしていきたいという当行の決意を示しております。

---

## プロフィール(平成16年3月末現在)

名 称	株式会社 福邦銀行 THE FUKUHO BANK, LTD.
本店所在地	福井市順化1丁目6番9号
創 立	昭和18年11月5日
資 本 金	43億円
預 金	4,312億円
貸 出 金	3,399億円
発行済株式総数	31,800千株
自己資本比率	8.94% (国内基準)
店 舗 数	51カ店
キャッシュコーナー	113カ所
従 業 員 数	589名
ホームページ	<a href="http://www.fukuho.co.jp">http://www.fukuho.co.jp</a>



## 信頼第一の銀行を目指し 地域に貢献してまいります。

平素より私ども福邦銀行を格別にお引き立ていただき誠にありがとうございます。

当行は、昭和18年の創立以来、地域社会への貢献のため健全な経営を続け、皆様と共に発展を遂げてまいることができました。これも、ひとえにお取引先、株主の皆様をはじめ地域の皆様のお陰でございます。心から厚くお礼申し上げます。

このディスクロージャー誌「FUKUHO REPORT 2004」は、当行の経営方針、最近の業績や活動状況について、できるだけ分かりやすくご説明させていただくことを心がけて作成いたしました。当行が何を目指し、どのように取り組んでいるのか、皆様のご理解をより一層深めていただければ幸いです。

現在、当行は、金融環境の激しい変革に柔軟に対応し、地域のお客様に最適な金融サービスを提供していくため「第六次中期経営計画“ふくほうSpirit”」に役職員一丸となって鋭意取り組んでおります。「信頼第一の銀行」を目指し、健全な経営体制の構築を基本方針に「収益力の強化」「リスク管理の強化」「人材養成」および「リレーションシップバンキングの機能強化」を重点課題・項目として、目標の達成に向けて諸施策を確実に実施してまいります。

平成17年4月にはペイオフ全面解禁を控えております。引き続き健全な経営に徹し、地域のお客様から信頼される銀行を目指し、地域社会の発展に貢献してまいります。

皆様のご指導、ご鞭撻と、なお一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

取締役頭取 **三田村俊文**

## 経営理念

### 地域社会への貢献

私どもは幸せな人間生活と豊かな社会づくりに貢献することを銀行活動の使命とします。

### 健全なる経営

銀行の発展は、地域社会への貢献の証しであり、私どもの存在を可能とするため、より健全な経営に心がけます。

### 活力ある職場

私どもが人間として尊厳を勝ちとるための錬成の場として、明るく活力ある職場づくりに努めます。



### 福邦の心

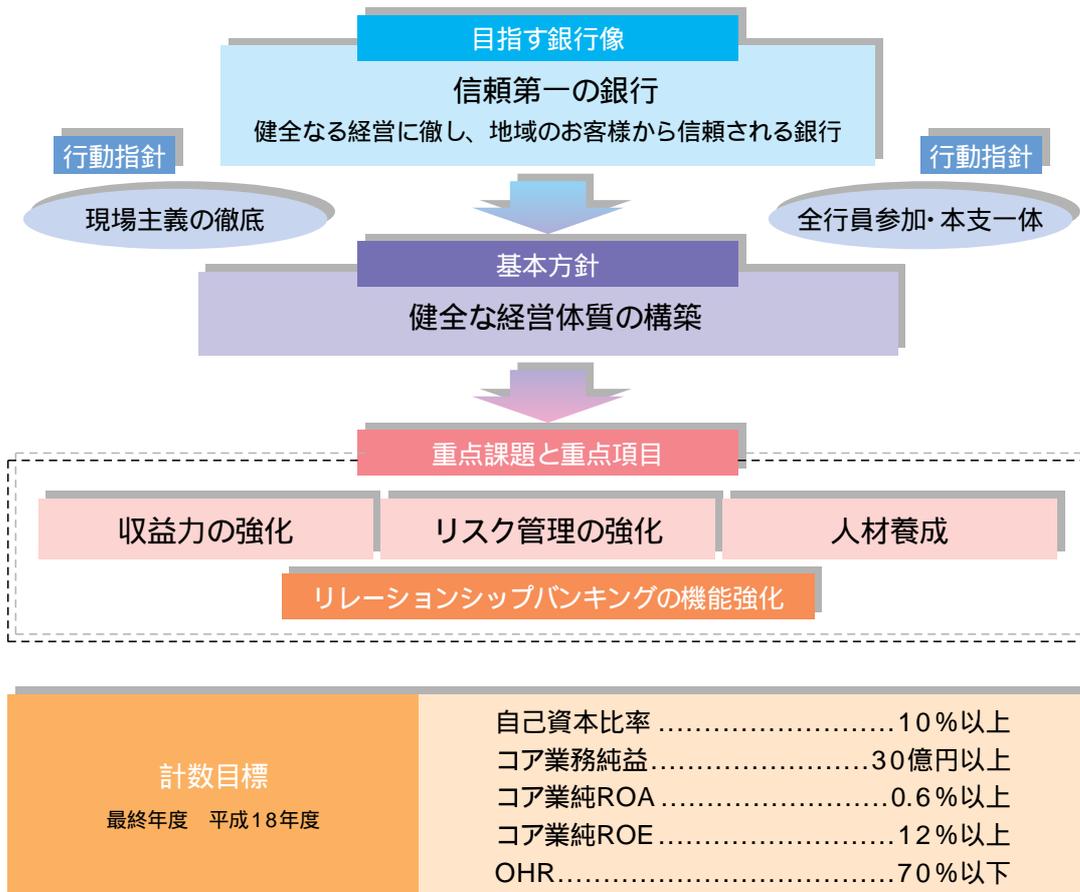
至誠の心  
和の心  
進取の心  
共存共栄の心

信頼の絆と責任を自覚し、お客様にまごころを尽くします。  
お互いの立場を理解し、喜びを分かちあう心を育てます。  
変化に対応する熱意と挑戦する心を養います。  
お客様第一に徹し、共存共栄の心で奉仕します。

## 第六次中期経営計画“ ふくほうSpirit ”

### 名称、期間、基本的考え方

- 名称：第六次中期経営計画“ ふくほうSpirit ”
- 期間：平成16年4月～平成19年3月：3力年計画
- 基本的考え方：金融環境の激しい変革に柔軟に対応し、地域のお客様に最適な金融サービスを提供するため、地域に根差した営業体制を強化し、収益性の高い健全な経営体質を構築する。



## 「リレーションシップバンキングの機能強化計画」について

当行では平成15年8月、金融庁の「リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム」を受けて、平成15年度から16年度までの2年度間を集中改善期間とした「リレーションシップバンキングの機能強化計画」を策定しました。

「リレーションシップバンキングの機能強化計画」の基本的方針は次のとおりです。

「中小企業の育成・支援・再生に向けた態勢強化」

「中小企業取引基盤の拡充」

「地域貢献とディスクロージャーの充実」

この基本的方針に基づき、企業支援・事業再生を専門とする企業経営支援室や事業融資推進体制の整備・強化に向けた法人営業部の設置、審査能力の向上を目指

した人材育成、ガバナンス強化のための情報開示体制整備等、計画の実現に向けた取り組みを着実に進めております。

なお、ガバナンスの強化への取り組みにつきましては、平成16年4月、「適時開示マニュアル」を策定し、株式公開銀行と同様の開示（タイムリーディスクロージャーを含む）のための体制を整備し、実施しております。

「リレーションシップバンキングの機能強化計画」の要約と進捗状況（要約）経営改善支援の取り組み実績等は、当行ホームページ（<http://www.fukuho.co.jp>）でご覧いただけます。

# トピックス(平成15年4月～16年3月)

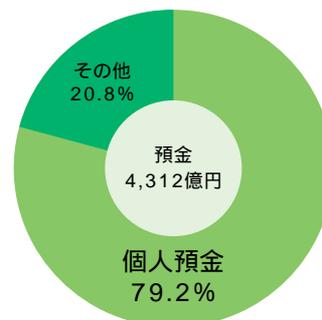
経営・営業関係	店舗	月	新商品・新サービス	キャンペーン
		15年 4		
平成15年3月期決算短信発表	イーザを365日稼働ATMに機能拡充	5		
受動喫煙防止のため全店営業室内の全面禁煙を実施		6	懸賞品付積金カンガルー60・100発売 住宅ローンの金利優遇キャンペーン開始 投資信託「ユーティリティIV」発売 第18回懸賞品付き定期預金発売 金利上乘せスーパー定期預金発売	福邦銀行60周年記念お客様キャンペーン
企業経営支援室を新設 2003ディスクロージャー誌 「FUKUHO REPORT 2003」 ミニディスクロージャー誌「こんにちは福邦銀行です」を発行	アル・プラザ武生にCD設置	7		
平成16年3月期第1四半期情報の開示 「リレーションシップバンキングの機能強化計画」策定		8	ふくほうカードローン「新マイジャンプ」発売	
「リレーションシップバンキングの機能強化計画」の要約をホームページで公表 「福井地域金融協議会」発足		9	ホームページで動画の商品案内サービス開始	
		10	マイカーローン「 <sup>ブーン</sup> Bo~n!」発売 投資信託「DKA J-REIT インデックスファンD(毎月決算型)」発売	
平成16年3月期中間決算短信発表 「リレーションシップバンキングの機能強化計画」の進捗状況(要約)をホームページで公表	ジョイマート丸岡にCD設置	11	通帳デザイン一新 第19回懸賞品付き定期預金発売 金利上乘せスーパー定期預金発売 当行保証付無担保私募債の取扱開始	
		12		
富山第一銀行小松支店の営業譲受けて同行と「営業譲渡に関する基本合意書」を締結 中小企業金融公庫と「業務連携協力に関する覚書」締結 商工組合中央金庫と「業務協力に関する覚書」締結		16年 1		
日本政策投資銀行北陸支店と「業務協力協定」締結 国民生活金融公庫と「業務連携・協力に関する覚書」締結 平成16年3月期第3四半期情報の開示		2		
		3	ふくほう「すまい・るパッケージ(抵当権同順位設定型)」の取扱開始	

春のWわくわく  
キャンペーン

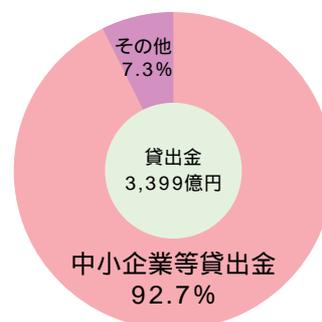
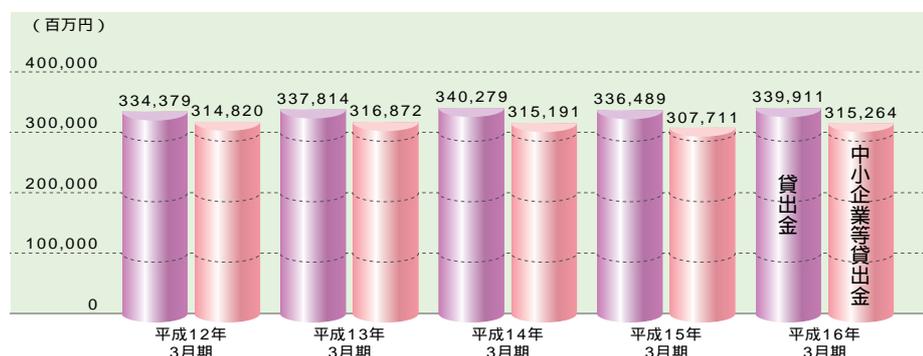
ライフローン「教育プラン」  
金利優遇キャンペーン

# 平成15年度 業績ハイライト

## 預金(単体)



## 貸出金(単体)



## 利益(単体)

### 業務純益



### 経常利益



### 当期純利益



### 単体での決算状況

預金は、個人預金の増加を主因として、前期末比36億18百万円増加し、期末残高は4,312億57百万円となりました。また、貸出金は資金需要の低迷から事業性融資が伸び悩んだものの、住宅ローンを中心とした個人ローンが順調に推移した結果、前期末比34億22百万円増加し、期末残高は3,399億11百万円となりました。損益状況につきましては、業務純益は前期比6億97百万円減少して22億91百万円、経常利益は前期比9億42百万円減少して2億26百万円、当期純利益は前期比53百万円減少して2億4百万円となりました。

## 利益(連結)

### 連結経常利益

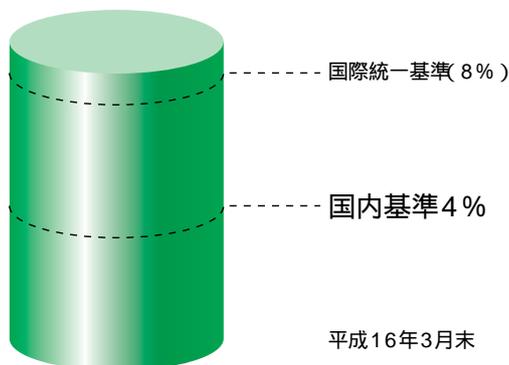


### 連結当期純利益



## 自己資本比率(国内基準)

単体・連結 8.94%



自己資本比率は銀行の安全性・健全性を示す重要な指標のひとつです。当行のように海外に支店を持たない銀行は国内基準の4%以上が義務付けられています。平成16年3月末のリスク・アセット(万一の場合、貸倒れの危険性のある資産)に対する自己資本の額は銀行単体・連結ともに226億円、自己資本比率は8.94%となっています。

当行は、負債性資本(劣後ローン・劣後債など将来の返済が必要なもの)をとり入れておりません。

## 配当政策

当行は従来から、銀行業としての公共性に鑑み、長期にわたって安定経営に努めるとともに、配当につきましても安定した配当の継続を基本方針としています。この方針に基づき、当期におきましても、中間配当を1株当り2円50銭、期末配当金は1株当り2円50銭とし、年間5円といたしました。今後も引き続き内部留保の充実による財務体質の強化と営業基盤の拡充を図り、一層の収益向上に努め、株主各位のご期待に添うべく努力してまいります。

### 用語のご説明

#### 業務純益

銀行本来の業務であげた利益から、業務を行う上でかかった経費と一般貸倒引当金繰入額を差し引いたものです。

#### 経常利益

不良債権の処理や有価証券の売買などの活動も含めた通常の活動による利益です。

#### 当期純利益

上記の経常利益から特別損益と税金を加減した最終的な利益です。